

「今の最善」を積み重ねて、自分らしいキャリアを築いていく

慶應義塾大学総合政策学部卒 / カルビー株式会社 人財・組織開発部 櫻井 直人 (高 57)

立高生の皆さん、はじめまして。高 57 期卒の櫻井です。

今回このような機会をいただき、恥ずかしながら私のこれまでのキャリアについて書かせていただきます。高校時代の同期が見たら、「なぜお前が…?」といじられるであろうほど、決して優等生でなかった私ですので、皆さんに偉そうに語れる話はないですが、一つの参考としてご笑覧ください。

1、私の略歴

立高を卒業後、慶應義塾大学総合政策学部 (SFC) を経て、新卒で人材サービス企業へ入社。約 11 年勤務した後、転職をして現在はカルビー (株) 人財・組織開発部にて人事 (採用/人材育成など) を担当しています。

2、高校時代の過ごし方

立高時代は、サッカー部に所属し、部活、立高祭などの行事、試験前のみ本気で勉強と、今思えばすべてに全力で何の後悔もないほどやり切った高校生活だったと思います。

私が高校受験をした当時はまだ“学区制”があり、学区外から越境入学した私は家が遠かったため、朝練の際は 6 時台には家を出て、行事前の準備期間は何日も友達の家泊めてもらい、試験前は一夜漬け、という日々でしたが、やると決めたら手を抜かない自分の性格を自覚できたこと、苦しくてもやり切ったときの充実感を味わえたこの 3 年間は、後で振り返ると今でも自分のキャリアの中で一つの自信になっているかもしれません。

3、大学選びと大学受験

3 年の夏過ぎまで部活 (当時サッカー部は選手権予選まで残るのが大半でした) をしたため、スイッチが入ったのは秋からだだったと記憶をしています。スタートも遅く、理系科目が大の苦手。自分の性格を考えた際に浪人はとてもリスクだと感じ、どうしても現役で大学に受かるための方法を考え尽くしました。結果、私大文系に絞り、必要な受験科目のみ、かつ志望大学の出題傾向を見て学ぶ分野と捨てる分野を明確にするという方法で、運よく現役合格を勝ち取りました。

※決してこれが正攻法とは思いませんので、悪しからず…

4、大学時代の過ごし方

大学入学後は、サークル活動、アルバイト・インターン、短期留学、授業・ゼミ活動など、とにかく「やりたいことに手を出し、いろいろやってみた期間」だったと感じています。

この時は、正直就職のことなど何も意識せず、その時の興味関心の赴くままに、様々な経験をしました。何か一つの分野に絞って深く追求していく道もあったのですが、この「広く浅くでもいいからとにかく動いてみるスタイル」が私にとってはよかったのかもしれない。

例えば、当時興味があった法曹関係への進路は、実際に授業を取ったことで自分には合わないことがわかったり、インターン先での働き方や人との出会いが就職先を決めるヒントになったり、ゼミ時代の人脈が社会人になって思わぬところで生きてきたり…いろいろと手を出して活動してみたからこそ感じたものや得られたものがあったのだと、今となっては思っています。

ちなみに、私が卒業した慶應 SFC は、一つの分野に絞り切らず学際的に、複合的に様々な分野の授業を履修することができ、また国籍やバックグラウンドなど非常に多様性に富んだ学生が集まる環境もとても刺激的でした。

5、これまでの社会人生活と今の仕事

就職活動を開始した際には、特にやりたいことなど明確ではないままでした。ただ、大学時代のアルバイトやインターンでの経験、また就職活動を通して様々な社会人とお話をする中で、「どういう大人になりたいか」「どういう大人にはなりたくないか」はぼんやりと描けるようになっていました。

大学卒業後は、人材サービス企業に新卒で入社をし、そこで約11年勤務しました。

充実した高校・大学生活を送ってきた自分にとって、これから先の人生でとても大きな比重を占めることになるであろう「仕事」が充実するかしらないかで人の人生に大きな影響を与えるのではないかと、そんな課題意識からこの仕事に興味を持ち、結果論ですが就職以来ずっとこのテーマには関わってきています。

私が担っている「人事」という仕事は、いかに社員の皆さんがやりがいを持って働き、一人ひとりが力を発揮してもらえるかを考える仕事です。

完全に後付けかもしれないですが、立高時代に、どうしたらメンバー外の部員や下級生が同じモチベーションで活動できるのか考えたサッカー部での経験や、一人でも多くの人たちを巻き込んで最高のチームにしようと努力した立高祭での経験が、私の中での良い原体験や心の支えになっていると思っています。

6、キャリアの振り返りと学び

進路やキャリアの話になった際、夢を持つことの重要性や目標を明確にすることの大切さを説かれることがよくあるかと思います。夢や目標を持つことを否定するつもりはないですが、夢や目標が明確にないからと言って成功できないと言われると決してそうでもない、と私は思っています。

私自身、社会人になってから10年以上、人のキャリアに携わる仕事をする中で様々なビジネスパーソンとお会いしてきましたが、成功されている人の中にも、もともとの大きな夢を叶えた人もいれば、その時その時に柔軟な判断をして紆余曲折・方向転換をしながら成功を掴んできた人もいて、どちらも正解だと思っています。特に現代は「VUCAの時代」と言われ、変化が激しく、不確実性が高く、先の予測が非常に難しい社会だと言われています。

大事なのは、見えない未来について不安を募らせることよりも、今自分がやりたいことや目の前のやるべきことに全力で取り組み、その時々「最善」を積み重ねること。結果としてそれが線としてつながり、自分らしいキャリアとして誇れるのではないのでしょうか。色々やってみて。違ったらまた次を探せばいい。失敗しても、何度でもやり直せばいい。私自身もそう思っています。

少し肩の力を抜いて、自分の気持ちにまっすぐ従って、今できることに一生懸命取り組んでみてください！